

連帯社会シンポジウム

入場
無料

◆ と き 2013年12月11日(水)

17:20~19:40 (受付:17:00~)

◆ ところ 法政大学 市ヶ谷キャンパス

ポアソナード・タワー26Fスカイホール

◆ コンテンツ

17:25 主催者代表挨拶

中村圭介・連合大学院研究交流センター準備室長

17:30 協賛者代表挨拶

神津里季生・連合事務局長

17:35 連帯社会の現状と連合大学院のめざす未来

浜村彰・法政大学常務理事

17:55 記念講演「社会運動の持つ力と引き出す手法」

マーシャル・ガンツ博士

19:30 (終了)

主催：連合大学院研究交流センター準備室

協賛：法政大学連帯社会インスティテュート設置準備委員会

日本労働組合総連合会（連合）

公益財団法人 日本労働文化財団

協力：池本修悟氏 ユニバーサル志縁社会創造センター専務理事

鎌田華乃子氏 コミュニティ・オーガナイズング・ワークショップ・イン・ジャパン

実行委員会発起人代表



◆ 講師のご紹介

マーシャル・ガンツ

Marshall Ganz

1943年3月14日 生まれ(70歳)

1960年にハーバード大学入学後、1964年に中退。

ミシシッピ州の公民権運動にボランティアとして参加し、学生非暴力コーディネイト委員会の活動にてオーガナイザーとしての使命を見出した。

1965年にシーザー・チャベス氏のカリフォルニアの農場労働者をオーガナイズする活動に加わり、ユナイテッド・ファームワーカーズ(UFW)を立ち上げた。UFWでの16年間に労働組合、コミュニティ、選挙オーガナイジングを経験し、オーガナイジング・ディレクターになる。またUFW全国理事に選出され8年間理事を務めた。1980年代は草の根組織と協同し効果的なオーガナイジング・プログラム、全国、州、地方レベルでの有権者動員プログラムの開発に関わる。

1991年に今までの経験を学問的に深めるために、28年ぶりにハーバード大学に戻り歴史学と社会学の学士を修了、1993年にハーバードケネディスクールにて行政学修士を修了、2000年に社会学博士号を修了する。現在ハーバードケネディスクールの上級講師としてソーシャルムーブメント、市民組織、政治におけるリーダーシップ、組織、戦略について研究、講義、執筆をおこなっている。

2008年の米国大統領選挙において、オバマ陣営の選挙参謀を務め、政治に関心のない若者、黒人、ヒスパニック層などに対して、パブリック・ナラティブやパブリック・オーガナイジングの手法を用いて投票所に向かわせ、初の黒人大統領を誕生させた。(ホームページ: <http://marshallganz.com/>)

